

大豆「ちくしB5号」の安定栽培法

筑後分場、豊前分場、農産部

1 背景、目的

「ちくしB5号」は、早播適性があり、多収で、品質が優れる大豆の新品種です。今後、「ちくしB5号」の普及を推進するためには、安定した生産を行う技術を確認する必要があります。

そこで、「ちくしB5号」の特性に対応した播種期、播種密度を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

1) 6月中旬～7月下旬に播種すると「フクユタカ」に比べて倒伏程度が小さく収量が安定して高くなります(表1)。

2) 収量が高く、倒伏程度の小さい播種密度は、6月中旬播では4.5株/m²(株間30cm)、7月上旬播では5.7～7.1株/m²(株間25～20cm)、7月中旬播では7.1～9.5株/m²(株間20～15cm)です(図1)。

3) 天候等の影響で7月下旬に播種する場合は、14.3株/m²(株間10cm)の密播にすると増収効果が認められます(図1)。

3 主要なデータ・画像など

表1 播種時期別の生育・収量（平成28、29年平均）

播種時期 月・日	品種名	播種密度 株/m ² (cm)	開花期 月・日	成熟期 月・日	倒伏程度	百粒重 g	子実重 kg/a	収量比 %	検査等級
6.15	ちくしB5号	4.5(30)	8.07	10.30	1.7	30.5	32.2	111	1等
	フクユタカ	4.5(30)	8.06	11.01	2.9	28.2	28.8	99	1等
7.10 ~14	ちくしB5号	7.1(20)	8.21	11.05	0.5	30.9	32.1	111	1等
	フクユタカ	7.1(20)	8.20	11.07	1.3	28.6	29.0	(100)	1等
7.24 ~25	ちくしB5号	9.5(15)	8.30	11.10	0.5	31.4	32.7	113	1等
	フクユタカ	9.5(15)	8.29	11.11	1.0	29.4	31.0	107	1等

- 注) 1. 試験場所は農産部。条間は70cm。播種密度の()内は株間。1株2本立て。
 2. 倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価。
 3. 百粒重、子実重はふるい目5.5mm以上の子実の数値。
 4. 収量比は7月中旬播の「フクユタカ」を100とした数値。

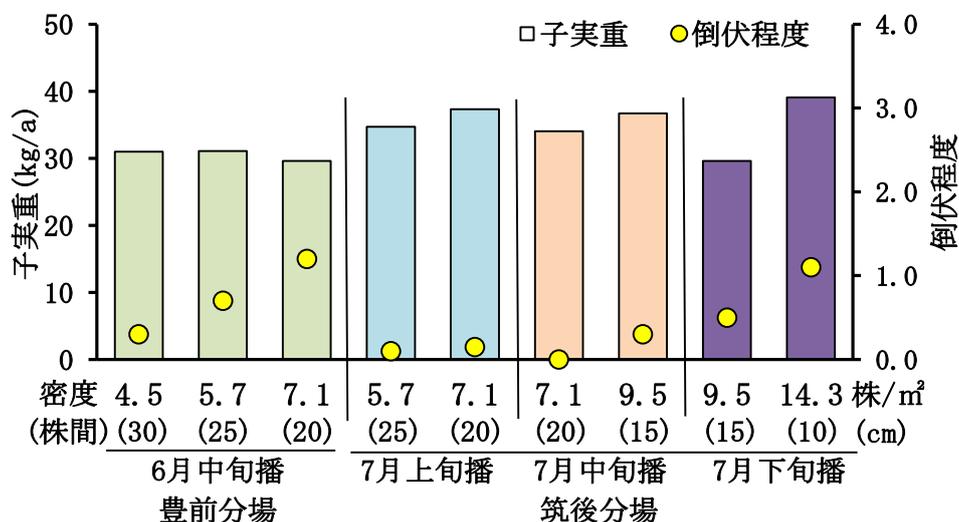


図1 「ちくしB5号」の播種時期別の播種密度と子実重（平成28、29年平均）

- 注) 1. 横軸の数値は播種密度および株間で1株2本立て。条間は全て70cm。
 2. 倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価。